



# テレマカシー

vol. **15**  
2008.1.20発行

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

旧年中はお世話になりました。  
今年もどうぞよろしく願っています。

ひばりクリニック 高橋 昭彦



あ、あられ!

## そうじができる人間に

つつい書類の山と化して  
しまう脇の机だが…



きれいになった机 (2008年1月撮影)

「そうじ」は子どもの頃から自信がなかった  
日曜の朝、父がほうきを動かしながら近づく  
プラモデル、本、ガラクタなどで散らかった私の部屋  
そこに転がる物と私は、よく廊下に掃きだされた

私は物をあまり捨てられない性質(たち)だった  
入場券、切手、硬貨、絵葉書、弥生式土器の破片から  
昭和新山の石、鳥取砂丘の砂に至るまで、何でも集めた  
整理ができなくせに、物に囲まれていると幸せだった

現在、クリニックの診察室にはL字に配置された机がある  
郵便物や書類、本、チラシは、脇の机に毎日積まれていく  
高くなるとその隣に積み上げ、さらに手前にも山が連なる  
やがてその山々は、季節を問わず雪崩(なだれ)を起こす

年末に、万年雪ならぬ万年書類を何とかしようと思った  
お正月休みに机の山をすべて整理して撤去したのである  
「あら、きれいですね」と言われると、さすがに嬉しい  
片づけをして褒められたことなどないに等しいからだ

散らかったところには、マイナスのエネルギーが充満するという  
きれいになった机からは、プラスのエネルギーと余裕を感じる  
心機一転、今年はそうじができる人間になりたい  
さて、いつまできれいに保てますか……



# 「忘りたいこと」を話してくれてありがとう



～長編ドキュメンタリー映画「ひめゆり」をみて～

## ■ はじめに ■

年末に、柴田昌平監督作品・「ひめゆり」(One's Cinema一周年企画)を見てきました。ひめゆり学園は、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の通称です。1945年3月23日、米軍が沖縄本島への艦砲射撃と空爆を開始。まさにこの日、15歳から19歳の少女たち222人が教員18人に引率されて、沖縄陸軍病院に動員されたのです。師範学校の最上級生にとっ

## ■ それぞれの青春 ■

ては、卒業式を2日後に控えた日でした。 和裁が好き。新聞を読むのが好き。寮の室長をしていた。弓道部。ブラスバンド部。「美少女」と呼ばれていた……学徒隊に入るまでの少女たちには、普通の暮らしがありました。戦場動員に反対する両親の制止を振り切って参加した少女たちもいました。ひめゆり学徒隊の死亡者は生徒123人、学徒隊に参加せず沖縄戦で亡くなった生徒は83人。それぞれの青春は、沖縄戦とともに過去のものとなりました。

## ■ 陸軍病院は壕の中 ■

那覇市の南東の小高い丘に沖縄陸軍病院がありました。生徒たちは赤十字の旗の立つ安全な場所に行くと思っていましたが、現実には絶え間なく砲弾が飛び交う戦場でした。生徒たちの仕事は、横穴を掘り、病棟の壕を造ることからはじまりました。40本の壕に二段ベッドが並べられ「病院」となったのです。



## ■ ひめゆりの看護活動 ■

運び込まれる重症者が増え、病院はすぐに飽和状態となりました。生徒たちは、歩けない重症者だけを受け付けるように命令され、やっと歩いてくる負傷兵を断ると「こんな体で戦場へ戻れというのか」と泣き出す人も。手術室では毎日、負傷した手足を切断する手術が行われ、生徒たちは小さな体で足を支えます。切断がおわると、まだ体温が残されている足を外へ運び

## ■ スズランの花 ■

くのも生徒たちの仕事でした。 生徒たちは「学生さん」と呼ばれていました。手の施しようもない兵士を励ますことしかできないこともあり。ある兵士は、「学生さん、僕は北海道の出身だ。今頃北海道ではスズランの花が咲いているよ。戦争が終わり僕の傷が治って、北海道に戻ることができたら学生さんにスズランの花を送ってあげよ

うね。ありがとう、学生さんありがとう。お母さん、お母さん」といって息を引き取ったと言います。

## ■ 撤退と解散命令 ■

沖縄戦開始から2ヶ月あまりで日本軍司令部のある首里が陥落。しかし、日本軍は「最後の兵まで戦う」として沖縄本島の最南端へ撤退し、洞窟に立てこもりました。米軍の本土上陸を遅らせる時間かせぎでしたが、学徒隊も従わざるを得ませんでした。やがて洞窟も包囲された6月18日の夜、突然の解散命令が下りました。「陸軍病院は解散することになった。君たちは頑張ってくれたけど、これからは自由だ、どこに行ってもよろしい。この壕を出て行け」と言われたのです。

## ■ 俺には君たちは殺せない ■

解散命令から3日後、ある生徒たちがたどりついた場所は米軍陣地の前でした。「米軍は捕虜を助けない。つかまったら、女性にはずかしめを受けて戦車でひき殺される」と教えられていました。1分でも早く死ななければ敵に捕まると思い、「誰か、私たち重傷で歩けませんから殺してください」と言うと、一人の日本兵が「今殺してやるから黙れ」とやってきました。なかなかその時がこないのを目を開けると、兵士は手榴弾を握ったまま生徒たちを見ていました。「どうしたんですか、早く殺してください」と言うと「俺には君たちは殺せないよ」と言って手榴弾をポケットの中に入れたのです。

## ■ おわりに ■

長い沈黙を破って「ひめゆり学徒隊」の生存者たちが話し始めたのは、1980年代になってからのことでした。映画の撮影を担当した澤幡正範さんは、収録途中でさえぎることなく、語ってくれる彼女たちがもう話すことができないと言うまでテープを廻し続けました。

ひめゆりの塔の隣地に建つ「ひめゆり平和祈念資料館」は、国立や県立ではなく、独立した財団法人「女師・一高ひめゆり同窓会」によって運営されています。来館者に少しでも理解してもらうため、生存者が証言員として立つようになりましたが、生存者のほとんどは80歳を超えています。

\*【参考】  
長編ドキュメンタリー映画「ひめゆり」資料集  
(2008年2月の「今月の一冊」として待合室に展示)



## 《 T-プロジェクト・ニュース 》

T-プロジェクトは、人工呼吸器をつけた子どもの預かりサービスの構築を行うために始まった研究事業です。これまで、人工呼吸器をつけた尊君を、2007年6月から2008年1月にかけて12回にわたりお預かりすることができました。多くの皆様に支えられてきたお蔭と感謝しています。1月のある日、電動ベッドを匿名の方からいただきました。車椅子に長く乗っていることができないお子さんが使えるものです。

ボランティア・ご寄付・ご支援くださいました皆さん、本当にありがとうございました。<( )>

**1**月12日、自治医大で地域医療学セミナー(梶井英治教授)の同窓会が開かれました。参加者は学生時代にセミナーに参加していた医師や看護師、そして現役の学生などです。発表の中で私が思わずうなったのは、自治医大2年生の酒井達也さん(沖縄県出身)の話でした。

酒井さんは、居酒屋「こっこのすけ」でアルバイトをしています。医学生のアパートといえ、家庭教師が定番ですが、酒井さんは1人の青年として働く居酒屋での仕事にやりがいを感じています。学校が終わった夕方から真面目に働く酒井さんは、今では先輩格。新人のアパートの面倒をみることもよくあります。

**☞**ここで問題です、と酒井さん。

「おいしい串物ができました。新人さんにお客様のところに持って行ってもらうとしたら、どのように言いますか？」

答えはこうです。

まず、「串物を持って行ったことがありますか？」と尋ねる。新人さんが「ない」と答えたら、自分がまず持って行き、

その様子を見てもらう。「ある」と答えた場合には持って行ってもらうが、必ず後ろからその様子を見守る。そして、きちんとできたら必ずほめる。

## 《アルバイトから学ぶ》



自治医大2年の酒井達也さんと高橋

**心**づくしのサービスには、それなりの作法があります。ただ持っているだけでいいというものではありません。しかし、最近ではできないことをできない、と言えない人が少なくないと言います。今の社会、新人さんに、「わからない」と言ってもらえるかどうかのポイントなのです。

この「極意」は、どんな職業にも通ずるものではないでしょうか。お客様にいろいろな方がおられるように、アルバイトに入る人にもいろいろな人がいます。なかには一日でやめてしまう人もいる

とか。お客様に心遣いをしつつ、働くチームの一員として後輩を育てるコツをも学ぶ。「僕はこの仕事が好きです」という酒井さんに、頼もしさを感じました。高学年になると勉強が忙しくなって、アルバイトに割く時間も少なくなるかもしれませんが、酒井さんが元気に働く居酒屋「こっこのすけ」には、ぜひ行って見たいと思います。

## 第12回「在宅ケアネットワーク栃木」総会・シンポジウムのお知らせ

**日時** 2008(平成20)年2月11日(月・祝)  
10時00分～15時30分(9時30分開場)

**会場** 自治医科大学・地域医療情報研修センター 大講堂

**テーマ** 「いまを生きる・ホスピスケア」

●メッセージ ● 大会長：高橋昭彦(ひばりクリニック院長)

その人らしい生き方を最期まで支えるケアのことを、ホスピスケアと言います。今回は、限りある尊い「命の時間」からつむぎだされる様々な「思い」を振り返り、皆さんと一緒に考えたいと思います。今というこの「瞬間」に込められる尊い「思い」から、この集いが皆さんにとって貴重な出会いと学びの時間になりますように、心を込めて開催いたします。

●参加費

- 一般▶ 1,000円(2008年より値下げしました)
- 学生▶ 500円
- \* 弁当1,000円(お茶付・要申込)
- \* 円滑な大会運営のため事前申し込みにご協力ください。

●事前申し込み

- 締め切り▶ 2008(平成20)年1月31日
- 参加費振込▶ (郵便振替) 記号番号：00180-1-418778  
加入者名：在宅ケアネットワーク栃木
- \* 郵便振替をご使用下さい。通通信欄に申込者住所、参加者全員の氏名、**弁当の数**を書き、合計額をお送りください。

●ポスター発表・アピール・自由集会受付

締め切り▶ 2008(平成20)年1月31日

●連絡先

- (学校法人)産業教育事業団内在宅ケアネットワーク栃木事務局
- 〒328-0012 栃木市平柳町2-1-38
- 電話・FAX：0282-29-1050
- E-mail：carenet@cc9.ne.jp
- ホームページ：http://www.cc9.ne.jp/~carenet/

### ●プログラム●

- 10:00 開会 在宅ケアネットワーク栃木 事務局長あいさつ  
寺沼 幸子事務局長
- 10:15 (第一部)  
懇談会「生きて活きた、新井さんが教えてくれたこと」  
・新井 裕子さん (新井茂光さんの奥様)  
・高木 敏江さん (デイホームあいあい)  
・飯島 恵子さん (ゆいの里)  
・高橋 昭彦世話人 (ひばりクリニック)
- 11:15 活動紹介コーナー  
・アピールタイム(在宅緩和ケアとちぎ・PEGドクターズネット 他)
- 11:45 ～昼 食～
- 12:45 (第二部)  
講演：自分の「いえ」で最期まで  
～かかりつけ医の行う在宅ケアと看取り～  
《講師》鈴木内科医院(東京都大田区)  
副院長 鈴木 央(ひろし)さん  
《座長》 関 隆郎世話人
- 13:45 ～休 憩～
- 14:00 シンポジウム「いまを生きる・ホスピスケア」  
・《訪問看護の立場から》  
訪問看護ステーション星が丘 黒崎雅子さん  
・《ケアマネジャーの立場から》  
ケアマネジメント廣瀬 廣瀬芳子さん  
・《緩和ケア病棟の立場から》  
自治医大緩和ケア病棟 小松崎香さん  
・《コメンテーター》  
鈴木内科医院 副院長 鈴木 央さん  
・《司会》 高橋昭彦世話人
- 15:25 閉会 閉会后自由集会(会場建物内会議室等) 17:00まで  
Produced by NPO法人風の詩 T.Nagashima

\* 当日参加も受け付けますので、奮ってご参加ください!  
(お弁当は事前予約のみとさせていただきます)

# わっどわ〜く

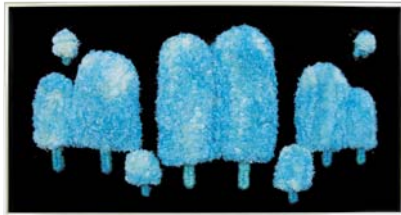


## 手芸作品「星あかり」

創作作家  
渡辺 恵美子さん

糸や布を題材にした作品を数多く手がける創作作家、渡辺恵美子さん(宇都宮市大谷町)が、ひばりクリニックに作品「星あかり」をお持ちくださいました。

星に照らされた森をイメージした作品は待合室に飾らせていただきます。「星あかり」は多くの方の心をやさしく照らしてくれることでしょう。渡辺さんありがとうございました。



「星あかり」▶

ふわふわの糸でできています



## テレマカシー14号に寄せられた感想から

### 〈母なるびわ湖〉について

故郷の北九州市の街に流れる紫川は、私が子どもの頃は真っ黒で、全国でも「汚い川」の上位にあったと思いますが、今はなんとアユの遡上がみられるほどによみがえりました。40年前、市や市民が「ゼツタイにきれいにするぞ〜」という決意をしなければ、今の姿はなかったはずです。40年後の今を夢見て、がんばってくれた人々に感謝です。(宇都宮市 Uさん)

♥ 切手をお送りいただきました皆さん、ありがとうございました。 <(\_)>



## テレマカシーのマドンナたち

皆様のお手元に届くテレマカシーの発送作業をしてくださっている方をご紹介します。米内美代さんと金子英紀さん敏子さんご夫妻です。3ヶ月に1回の発送日にあわせて作業は進みます。編集をお願いしているデザインスタジオ・アクセスの関根直久さんが印刷の仕上がったテレマカシーをお持ちくださるのが発送日の前日。私が原稿を出すのがいつもギリギリになってしまうからです。編集作業に平行して金子英紀さんが、封筒に宛名書きをしてくださいます。発送日当日、米内さんと金



米内美代さん(左)と金子敏子さん(右)

子敏子さんが来てくださり作業開始。封筒に必要部数を入れて封をし、切手を貼って郵便局へ、部数の多いものはお得なメール便を活用します。発行1,000部のうち6〜7割はこのやり方でお届けするのでなかなかの作業です。

最初、この作業を私と事務スタッフではじめましたが、第4号(2005年4月)から米内さんが「やりましょうか」と声をかけてくださり、第6号からは金子さんが加わり、麗しきマドンナ・サポーターが誕生したのです。ありがたやありがたや。体力気力の続く限りテレマカシーは発行していきますので、未永くお世話になりたいと思っています。

## 「ひばりクリニック」のご案内

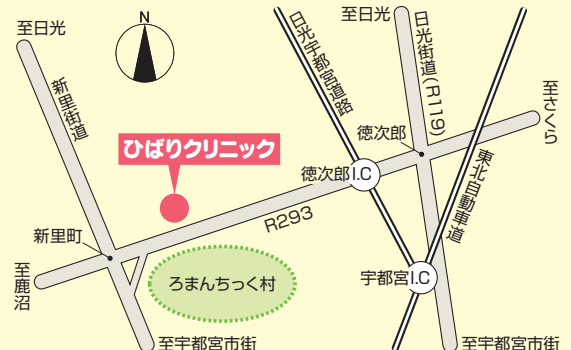
### ● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	(休)	○	○	(休)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休 診)	訪問	訪問	(休 診)	訪問	訪問診療	訪問

### ● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること

栃木県宇都宮市の西北部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14  
TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899  
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp

この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。